

心理学

| 授業科目名 | 授業題目 | 単位 | 担当教員氏名 | 開講 セメスター |
|------------|-----------------------|----|---|-------------|
| 実験心理学特論Ⅰ | 心理学・脳科学からみる 知覚・認知 | 2 | 河地 庸介 | 前期 水曜4限 |
| 実験心理学特論Ⅱ | ストレスと化粧の社会生理 心理学 | 2 | 阿部 恒之 | 前期 水曜1限 |
| 実験心理学特論Ⅲ | 神経・生理心理学 | 2 | 坂井 信之 | 後期 水曜3限 |
| 実験心理学特論Ⅳ | 心理統計法 | 2 | 倉元 直樹 | 前期 月曜2限 |
| 社会心理学特論Ⅰ | 犯罪・非行の社会心理学 | 2 | 荒井 崇史 | 前期 金曜3限 |
| 社会心理学特論Ⅱ | 文化と人間行動 | 2 | 辻本 昌弘 | 後期 金曜2限 |
| 心理学特論Ⅰ | 犯罪心理学：日本と台湾 の比較 | 2 | 戴 伸峰 | 前期 集中講義 |
| 心理学特論Ⅱ | ウェルビーイングの心理 学とその応用 | 2 | WIWATTANAPANT UWONG JUTHATI P | 後期 木曜3限 |
| 心理学総合演習Ⅰ | 特選題目研究Ⅰ | 2 | 阿部 恒之、坂井 信 之、辻本 昌弘、大森 美香、荒井 崇史、河 地 庸介、RAEVSKI Y ALEXANDER | 前期 金曜5限 |
| 心理学総合演習Ⅱ | 特選題目研究Ⅱ | 2 | 阿部 恒之、坂井 信 之、辻本 昌弘、大森 美香、荒井 崇史、河 地 庸介、RAEVSKI Y ALEXANDER | 後期 金曜5限 |
| 実験心理学研究演習Ⅰ | 認知脳科学の最前線と実 際 | 2 | 河地 庸介 | 後期 水曜2限 |
| 実験心理学研究演習Ⅱ | 感情心理学の展開 | 2 | 阿部 恒之 | 後期 水曜1限 |
| 実験心理学研究演習Ⅲ | 神経・生理心理学の文献 研究 | 2 | 坂井 信之 | 前期 水曜3限 |
| 実験心理学研究演習Ⅳ | 心理測定の基礎 | 2 | 倉元 直樹 | 後期 月曜2限 |

心理学

| | | | | |
|------------|------------|---|---|--------------|
| 社会心理学研究演習Ⅰ | 犯罪・非行研究の展開 | 2 | 荒井 崇史 | 後期 木曜2限 |
| 社会心理学研究演習Ⅱ | コミュニティと文化 | 2 | 辻本 昌弘 | 前期 金曜2限 |
| 心理学研究実習Ⅰ | 心理学測定実習Ⅰ | 2 | 河地 庸介、阿部 恒之、坂井 信之、辻本昌弘、荒井 崇史、RAEVSKIY ALEXANDER | 前期 火曜3限、火曜4限 |
| 心理学研究実習Ⅱ | 心理学測定実習Ⅱ | 2 | 河地 庸介、阿部 恒之、坂井 信之、辻本昌弘、荒井 崇史、RAEVSKIY ALEXANDER | 後期 火曜3限、火曜4限 |

科目名：実験心理学特論 I

曜日・講時：水曜 4 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：河地 庸介

コード：LM13406, 科目ナンバリング：LIH-PSY601J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：心理学・脳科学からみる知覚・認知

2・授業の目的と概要：人間は、意識的かどうかにかかわらず、外界の事物や自分や他者の状態等の多種多様な情報を認識し、行動を選択し、外界や他者に働きかけながら生活している。本講義では、このような情報のやりとりを支える「ところ」、さらには脳について、認知心理学のみならず、情報科学や脳科学等との密接な関連性を意識しながら理解することを目指す。適宜、錯覚等の心的現象のデモンストレーションや心理学実験の実体験に加えて、最新の脳科学的知見・話題をも織り交ぜながら講義を進めていく。

3. 学習の到達目標：日常生活の中で体験する自分自身や他者の「ところ」にかかわる現象を認知心理学の立場から考察し、近々様々なメディアで取りあげられている心理学や脳科学に関する話題を理解・評価できる力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業資料と授業情報については Google Classroom を使用して発信する。
内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. ガイダンス
2. 知覚・認知心理学で用いる心と脳の測り方
3. 世界を感じるための心と脳の基本特性
4. 初期視覚情報処理 1 (網膜・受容野)
5. 初期視覚情報処理 2 (コントラスト・空間周波数処理)
6. 初期視覚情報処理 3 (色・運動・奥行き知覚)
7. 中期視覚情報処理 (図地の知覚, 群化)
8. 高次視覚情報処理 (物体・顔・シーンの知覚)
9. 聴覚・触覚情報処理
10. 多感覚統合
11. 注意：定義と測定方法
12. 様々な注意：空間的注意, 特徴ベースの注意, 物体ベースの注意
13. 心的イメージ
14. 意思決定
15. まとめ

5. 成績評価方法：試験もしくはレポート (60%) およびコメントシートの提出 (40%) をもとに評価する。

6. 教科書および参考書：必要に応じてプリントもしくは PDF ファイルを配布する。

7. 授業時間外学習：講義内で提示されるキーワードや重要研究について、論文・書籍・URL などを通して理解を深めること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：実験心理学特論Ⅱ

曜日・講時：水曜 1 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：阿部 恒之

コード：LM13102, 科目ナンバリング：LIH-PSY602J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ストレスと化粧の社会生理心理学

2・授業の目的と概要：化粧という日常行為を題材に、具体的な研究例を学び、社会生理心理学的アプローチの理解を深める。
キーワード： コルチゾール・アドレナリン・進化適応の環境・やっかい事・気晴らし・いやし・はげみ

3. 学習の到達目標：社会生理心理学の重要トピックスを学び、独力で研究を行う力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は対面で実施する。但し、オンデマンドビデオなどのリモート素材も活用する。

資料提供や小レポートの提出、連絡などはClassroomを通じて行う。Classroomのクラスコードは、学部の「実験心理学各論(感情・人格心理学)」と共用するので、そちらに登録すること(詳細はガイダンスにて)。

授業は別途指示するテキストに沿って進行するが、状況に応じて内容を変更することがある。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 ストレス研究史・用語の定義
- 3 回目 生理学的基盤 1：交感神経副腎髄質系
- 4 回目 生理学的基盤 2：HPA 系
- 5 回目 生理学的測定法
- 6 回目 生理心理学の研究史
- 7 回目 ストレッサー研究のパラダイムシフト 1：生活重大事
- 8 回目 ストレッサー研究のパラダイムシフト 2：やっかい事と気晴らし
- 9 回目 化粧の文化史
- 10 回目 謎と研究
- 11 回目 実験室実験
- 12 回目 社会的文脈における実験
- 13 回目 ストレスホルモン分泌を促す心理的要因
- 14 回目 感情調節装置としての化粧
- 15 回目 まとめ

5. 成績評価方法：期末レポート* (20%)，毎回の小レポート* (60%)，出席**と討議への参加 (20%)。

上記の合計得点を踏まえて総合的に評価する。

*期末レポートと毎回の小レポートについては、もれなく提出した者のみ単位認定対象とする。

**2/3 以上出席した者のみ単位認定対象とする。

6. 教科書および参考書：教科書：ストレスと化粧の社会生理心理学

阿部恒之 (著) <WEB 書籍>

2025 年株式会社センキョウ発行 定価 1000 円+税

ISBN978-4-9913466-0-6

以下 URL より購入申請の上、郵便振替で購入のこと(振込み料は不要)。

https://docs.google.com/forms/d/1pb7U9TxxhYGnkR6nRK19xiQFeNPL9ikzdYSi_BZ50K5s/edit?ts=67613ed5

*この書籍はフレグランスジャーナル社から発行されていたが、同社が 2023 年 9 月をもつ

7. 授業時間外学習：毎回小レポートを課すので、それを通じて復習すること。

関連する論文を自ら見つけて、学んだ内容を発展的に自習して欲しい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

小レポート等、全ての提出物は受講生全員で共有して、互いに参考にする場合がある。これを前提に作成すること。

WEB 書籍の教科書の講読など、コンピュータを使うので持参すること。

科目名：実験心理学特論Ⅲ

曜日・講時：水曜 3 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LM23307, 科目ナンバリング：LIH-PSY603J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：神経・生理心理学

2・授業の目的と概要：この授業では、人間の「脳神経系の構造および機能」、「記憶、感情等の生理学的反応の機序」および「高次脳機能障害」のそれぞれ概要について理解することを目的とする。

3. 学習の到達目標：ヒトの認知機能がどのような仕組みで支えられているかについて理解することができるようになる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は主に教員がスライドを使いながら解説する形式である。進度の予定は以下の通り。

- 第1回 日常生活を支える脳の仕組み
- 第2回 脳と神経の成り立ち：脳と自律神経系を中心に
- 第3回 神経系の情報伝達とその柔軟性：シナプスと神経伝達物質
- 第4回 大脳皮質の機能局在：前方は運動、後方は知覚
- 第5回 脳を測る：電気信号と化学信号
- 第6回 経験に基づく脳の変化
- 第7回 人の知情意を司る脳
- 第8回 ものを見るのは目か脳か？
- 第9回 手を動かしているのは筋肉か脳か？
- 第10回 記憶は脳のどこにどのような形で蓄えられるか？
- 第11回 怒りを感じるのは脳のどこか？
- 第12回 お腹が空く理由は？
- 第13回 脳が変わると行動や心はどのように変わるのか？
- 第14回 記憶を失った青年の話
- 第15回 心の病気＝脳の病気

5. 成績評価方法：定期試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）

6. 教科書および参考書：授業中に適宜資料を配布・紹介する。

7. 授業時間外学習：毎回の授業前後に小レポートを課するので、授業内容を予習・復習しながら、そのレポートに回答する必要がある。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

この授業は原則として対面にて実施する。詳細は Classroom で通知する予定である。

なお、復習と次週の予習のため、小レポートへの回答が必須であり、小レポートへの回答は 90 分程度必要となることを予め理解しておくこと。

科目名：実験心理学特論Ⅳ

曜日・講時：月曜 2 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：倉元 直樹

コード：LM11206, 科目ナンバリング：LIH-PSY604J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：心理統計法

2・授業の目的と概要：量的データを用いた研究法を念頭に、データ分析に必要な基礎理論を学ぶ。統計的方法の考え方について、基本から理解し、把握する機会とする。講義に必要な数学的事項は高校段階程度までさかのぼって解説する予定である。統計的な分野について初めて触れる方、これまでに何度か受講経験があっても理解が不十分と感じる方を主な対象とする。人文・社会科学の研究を志す方であれば受講者の専攻分野は問わない。なお、主として授業期間の前半にレポートとして課される演習課題に若干の時間が取られることを覚悟しておいてほしい。

3. 学習の到達目標：初等統計学の基礎的概念の習得。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態： 対面授業（原則）とオンライン授業の併用

1. イントロダクション（1コマ）

2. 記述統計学（統計とは何か、変数とデータ、尺度の水準、度数表、クロス集計表、連続変数、離散変数、多変量データ、連続データの度数表、ヒストグラム、累積度数折線、数値による分布の要約 [モーメント系、分位数系]、2つの変数の関係 [相関係数、回帰]）（6コマ）

3. 推測統計学（確率、条件付確率、確率分布、二項分布、正規分布、確率密度と確率、記述統計学と確率モデル、統計的仮説検定、帰無仮説と対立仮説、検定の手続き、有意水準と検出力、連続分布と離散分布、微分・積分、期待値、標本平均の期待値とその分散、標本分散の期待値、正規分布、標本平均の分布、様々な手法から実験計画へ [期待度数と実測度数、分割表の独立性、相関係数の検定、対応があるデータの平均値、符号検定]、分散分析の基礎）（7コマ）

4. 期末考査（1コマ）

5. 成績評価方法：期末考査 [30%程度]・レポート [30%程度]・出席状況 [40%程度]

基本的に対面授業を予定しているが、オンライン授業となることもある。公欠は認めない。ただし、やむを得ない理由で出席できない場合には、求めに応じて授業動画を提供する場合がある。その視聴をもって当該授業会への出席と認める。

6. 教科書および参考書：教科書：自作プリント（Google Classroom にアップロードする予定）

参考書：中村知靖，松井仁，前田忠彦共著，2006，『心理統計法への招待』，サイエンス社

7. 授業時間外学習：7回のレポート課題を課す予定。授業時間外に予習、復習を奨励する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

9. その他：

オンデマンドの授業動画のクオリティは保証しない。

科目名：社会心理学特論 I

曜日・講時：金曜 3 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LM15307, 科目ナンバリング：LIH-PSY605J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：犯罪・非行の社会心理学

2・授業の目的と概要：本授業は、日常で発生する反社会的行為（犯罪や非行）を社会心理学的な視点から捉えることで、そうした反社会的行為を理解するための知識を習得することを目的とする。授業は基本的な知識を提供する講義形式に加えて、必要に応じて受講生同士でディスカッションを行う形式で進める。

3. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、以下の2点である。

- (1) 司法・犯罪分野の制度や法律、各機関における活動や活動倫理を理解する。
- (2) 犯罪や非行の原因を社会心理学の視点から理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面授業を行います。授業にあたって、この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ず Google Classroom にアクセスし、クラスに参加してください。

授業内容とスケジュールは以下の通りですが、進度によって変更する場合があります。

1. 全体ガイダンス：犯罪・非行と社会心理学
2. 犯罪・非行に関連する法律
3. 刑事司法制度の詳細：成人
4. 刑事司法制度の詳細：未成年
5. 犯罪統計を活用した犯罪研究
6. 犯罪・非行の原因：生物学的要因（1）
7. 犯罪・非行の原因：生物学的要因（2）
8. 犯罪・非行の原因：心理学的要因（1）
9. 犯罪・非行の原因：心理学的要因（2）
10. 犯罪・非行の原因：社会学的要因（1）
11. 犯罪・非行の原因：社会学的要因（2）
12. 環境と犯罪
13. 犯罪予防の応用
14. 司法・犯罪領域の心理学的アセスメントと支援
15. 本授業の総括と知識確認

5. 成績評価方法：期末試験・レポート 60%

受講態度 40%（授業内課題 20%，その他 20%）

※やむを得ない事情（忌引き・病気等）で欠席した場合には、その根拠資料（診断書等）を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

6. 教科書および参考書：以下の書籍を教科書とする。また、参考書を講義中に適宜紹介する。

森丈弓 他（2021）司法・犯罪心理学 サイエンス社

7. 授業時間外学習：初回の授業で紹介する参考文献等を、予習・復習として通読することを求める。また、各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進める。したがって、各回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要となる。なお、授業内容を予習復習することは当然として、授業時間外学習として複数の課題（レポート等）を課す。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：社会心理学特論Ⅱ

曜日・講時：金曜 2 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LM25209, 科目ナンバリング：LIH-PSY606J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：文化と人間行動

2・授業の目的と概要：文化やコミュニティに関する理論や研究例をとりあげ、研究の系譜と主要な理論モデル、社会生態環境と適応、文化変容の諸相、現代社会における多文化主義などについて解説していく。

3. 学習の到達目標：文化と社会に関する心理学、および関連研究領域の主要な理論と研究例を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文化的存在としての人間
2. 人類の多様性と普遍性
3. 文化と心
4. 文化研究の系譜
5. 心理プロセスの文化差
6. 文化差の理論モデル
7. 人類の進化と適応
8. 社会生態環境と文化
9. 近年の理論と論争
10. 異文化接触の事例
11. 文化変容の理論モデル
12. 文化変容と対人関係
13. 国民国家とエスニシティ
14. 多文化主義の理念と実践
15. まとめ

5. 成績評価方法：小テスト (50%), 期末レポート (50%)

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。授業中に適宜、参考書を紹介する。

7. 授業時間外学習：各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえておこないます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要です。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

学習の一環として心理学の実験・調査への参加を要望することがある。

科目名：心理学特論 I

曜日・講時：集中講義

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：戴 伸峰

コード：LM98815, 科目ナンバリング：LIH-PSY607J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：犯罪心理学：日本と台湾の比較

2・授業の目的と概要：犯罪心理学は犯罪および犯罪者について研究する心理学の一分野である。 犯行当時の心理状態、犯罪者の性格、罪を犯す発達の経緯などをはじめ、証言の心理などを研究する裁判心理学や、犯罪者の矯正・更生・犯罪予防を目的とする矯正心理学を含むことである。本講義では、犯罪心理学の紹介をはじめに、心理学の観点から犯罪現象や事例を分析することから成る。また、担任講師は台湾籍であり、日本と台湾の犯罪心理学の現状を紹介し、それぞれの特徴を比較することは講義の目的である。

3. 学習の到達目標：犯罪心理学の観点から、犯罪事情や事例を分析し、実証的な観点から犯罪を理解する力を育成することである。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は基本的には Google Meet によるオンライン遠隔授業中心のハイブリッド方式で実施する。なお、授業資料と授業情報については Classroom を使用して発信する。内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. 現代日本の犯罪動向
2. 現代台湾の犯罪動向
3. 日本統治時代が台湾の犯罪や法律に及ぼす影響
4. 犯罪原因の科学的研究方法 1
5. 犯罪原因の科学的研究方法 2
6. 犯罪の社会的要因に関する実証研究
7. 犯罪の社会的要因 1
8. 犯罪の社会的要因 2
9. 犯罪の個人的要因 1
10. 犯罪の個人的要因 2
11. 犯罪の発達の要因 1
12. 犯罪の発達の要因 2
13. 犯罪原因の統合的理解および応用 1
14. 犯罪原因の統合的理解および応用 2
15. まとめとレポート提出

5. 成績評価方法：犯罪心理学（事例の分析、実証研究の結果、自分自身に対する啓発など）に関する期末レポート（100%）

6. 教科書および参考書：参考用の教科書：

犯罪心理学—犯罪の原因をどこに求めるか 大淵憲一 培風館

7. 授業時間外学習：犯罪事情や事例に積極的に興味を持つこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：心理学特論Ⅱ

曜日・講時：木曜 3 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：WIWATTANAPANTUWONG JUTHATIP

コード：LM24302, 科目ナンバリング：LIH-PSY618J, 使用言語：日本語・英語

1. 授業題目：ウェルビーイングの心理学とその応用

2・授業の目的と概要：1946年の世界保健機関（WHO）憲章の草案の中で、「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態（well-being）であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と定義されている（厚生労働省）。本講義では、「ウェルビーイング」の概念を紹介し、様々な観点を紹介する。講義の後半は自然災害や感染症が広まった「非常時」のウェルビーイングの研究について論じる。また、様々な研究がウェルビーイングや現在注目される話題とどのようにかわるかを考察する。

3. 学習の到達目標：1. 受講者は、ウェルビーイングの定義、測定方法及び、他の心理学概念との関連を説明することができる。
2. 受講者は、自然災害やコロナ感染症などの「非常時」と「平常時」のウェルビーイングの変化を見分けることができる。
3. 受講者は、ウェルビーイングの概要を考察し、現在注目されている問題との関連を把握し、ソリューションを提案することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この講義は Zoom を介してタイと日本をつなぐオンライン講義である。授業に関する各種情報は文学部・文学研究科の HP 等でお知らせするので、各自確認いただきたい。

1. ウェルビーイングの定義とその使い方
2. ヘドニック・ウェルビーイングとユーダイモニック・ウェルビーイング
3. ポジティブ心理学
4. ライフステージ別ウェルビーイング
5. 心理学的介入
6. ウェルビーイングの文化的差異
7. 多様性、公平性、インクルージョン
8. 災害心理学とウェルビーイングの導入
9. 災害時および災害後の人間の反応と討論 1
10. 災害時および災害後の人間の反応と討論 2
11. 災害時における逸脱行動
12. 災害時の向社会的行為、絆、および災害文化
13. 災害時における心理的支援
14. リスク認知と防災準備
15. 気候変動の心理的影響

5. 成績評価方法：レポート 70%

受講態度 30%（授業内での議論への参加度）

※やむを得ない事情（忌引き・病気等）で欠席した場合には、その根拠資料（診断書等）を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

6. 教科書および参考書：なし

7. 授業時間外学習：各回の授業内容について、事前に予習を行い、その内容を把握しておくこと。また、その内容に関する議論に耐えうるだけの知識を身につけておくこと。事前の予習は、教科書や配布する資料等を参考にするとともに、各回の授業内容と関連する文献を読んでおくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

科目名：心理学総合演習 I

曜日・講時：金曜 5 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：阿部 恒之、坂井 信之、辻本 昌弘、大森 美香、荒井 崇史、河地 庸介、RAEVSKIY ALEXANDER

コード：LM15503, 科目ナンバリング：LIH-PSY608J, 使用言語：基本的に日本語。英語の場合も有る。

1. 授業題目：特選題目研究 I

2・授業の目的と概要：各自の研究テーマについて順次報告し、受講者全員で討論を行う。

基本的に、1回の演習で2名がそれぞれ30分程度のプレゼンテーションを行う。

発表レジメもあらかじめ作成し、出席者全員に配布する。

質疑討論はそれぞれの発表につき15分程度行う。

この演習の目的は、修士論文や博士論文につながる実験・調査の計画、遂行、結果のまとめや考察を進展させることにある。わかりやすく説得力のある発表をするように努め、そのテーマを専門としない出席者の理解を促進するように工夫をすること。

3. 学習の到達目標：各自の研究活動に基づく発表を通じて、心理学の各領域の研究についての理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信する。

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 発表と討議 (1組目)
- 3回目 発表と討議 (2組目)
- 4回目 発表と討議 (3組目)
- 5回目 発表と討議 (4組目)
- 6回目 発表と討議 (5組目)
- 7回目 発表と討議 (6組目)
- 8回目 発表と討議 (7組目)
- 9回目 発表と討議 (8組目)
- 10回目 発表と討議 (9組目)
- 11回目 発表と討議 (10組目)
- 12回目 発表と討議 (11組目)
- 13回目 発表と討議 (12組目)
- 14回目 発表と討議 (13組目)
- 15回目 まとめ

5. 成績評価方法：発表 (40%)、平常点 (30%)、討論への参加 (30%)

6. 教科書および参考書：使用しない。

7. 授業時間外学習：各自、プレゼンテーションに備えて実験・調査を計画・遂行し、その構想やデータなどを理解のしやすい内容にまとめ、レジメと投影資料を準備すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

履修は心理学専攻分野の大学院生に限る。

心理学総合演習 I と II を連続履修し、当該年度に2回以上の発表を行うこと。

科目名：心理学総合演習Ⅱ

曜日・講時：金曜 5 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：阿部 恒之、坂井 信之、辻本 昌弘、大森 美香、荒井 崇史、河地 庸介、RAEVSKIY ALEXAN
DER

コード：LM25504, 科目ナンバリング：LIH-PSY609J, 使用言語：基本的に日本語。英語の場合も有る。

1. 授業題目：特選題目研究Ⅱ

2・授業の目的と概要：各自の研究テーマについて順次報告し、受講者全員で討論を行う。

基本的に、1回の演習で2名がそれぞれ30分程度のプレゼンテーションを行う。

発表レジメもあらかじめ作成し、出席者全員に配布する。

質疑討論はそれぞれの発表につき15分程度行う。

この演習の目的は、修士論文や博士論文につながる実験・調査の計画、遂行、結果のまとめや考察を進展させることにある。わかりやすく説得力のある発表をするように努め、そのテーマを専門としない出席者の理解を促進するように工夫をすること。

3. 学習の到達目標：各自の研究活動に基づく発表を通じて、心理学の各領域の研究についての理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信する。

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 発表と討議 (1組目)
- 3回目 発表と討議 (2組目)
- 4回目 発表と討議 (3組目)
- 5回目 発表と討議 (4組目)
- 6回目 発表と討議 (5組目)
- 7回目 発表と討議 (6組目)
- 8回目 発表と討議 (7組目)
- 9回目 発表と討議 (8組目)
- 10回目 発表と討議 (9組目)
- 11回目 発表と討議 (10組目)
- 12回目 発表と討議 (11組目)
- 13回目 発表と討議 (12組目)
- 14回目 発表と討議 (13組目)
- 15回目 まとめ

5. 成績評価方法：発表 (40%)、平常点 (30%)、討論への参加 (30%)

6. 教科書および参考書：使用しない。

7. 授業時間外学習：各自、プレゼンテーションに備えて実験・調査を計画・遂行し、その構想やデータなどを理解のしやすい内容にまとめ、レジメと投影資料を準備すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

履修は心理学専攻分野の大学院生に限る。

心理学総合演習ⅠとⅡを連続履修し、当該年度に2回以上の発表を行うこと。

科目名：実験心理学研究演習 I

曜日・講時：水曜 2 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：河地 庸介

コード：LM23210, 科目ナンバリング：LIH-PSY610J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：認知脳科学の最前線と実際

2・授業の目的と概要：本演習では、最新の実験心理学または脳科学（ニューロイメージング）研究論文を取り上げ、①研究背景から研究仮説の導出、②仮説検証のための研究方法の選択、③適切なデータ処理、④研究仮説と結果との違いに基づいて述べられる考察の理解、に着目して話題提供・討論を行う。さらには、⑤取り上げた研究の新規性についても討論を行う。演習で扱うテーマは知覚・認知・感性が基本となる。

3. 学習の到達目標：①自分自身の問題意識や関心に基づいて、研究論文を選び出し、必要な情報を読み取ることができることを目指す。

②仮説検証方法の妥当性を評価できるようになること

②先行研究との比較の中で、当該研究の意義・新規性を評価できるようになること。

④新たな研究課題を見つけることができるようになること。

⑤研究の主観的・社会的意義について意識できるようになること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。ただし、状況に応じてオンライン授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. ガイダンス（演習の進め方）

2. 話題提供・解説・討論

3. 話題提供・解説・討論

4. 話題提供・解説・討論

5. 話題提供・解説・討論

6. 話題提供・解説・討論

7. 話題提供・解説・討論

8. 話題提供・解説・討論

9. 話題提供・解説・討論

10. 話題提供・解説・討論

11. 話題提供・解説・討論

12. 話題提供・解説・討論

13. 話題提供・解説・討論

14. 話題提供・解説・討論

15. 話題提供・解説・討論

5. 成績評価方法：発表(40%)、討論への参加(60%)をもとに評価する。

6. 教科書および参考書：授業で用いる論文について指示する。もしくはPDFファイルの配布を行う。

7. 授業時間外学習：授業内で扱う研究論文を通読しておくことが必要である。適宜、授業内で提示されるキーワードや重要研究について、論文・書籍・URLなどを通して理解を深めることが望ましい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：実験心理学研究演習Ⅱ

曜日・講時：水曜 1 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：阿部 恒之

コード：LM23102, 科目ナンバリング：LIH-PSY611J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：感情心理学の展開

2・授業の目的と概要：講義と発表・議論を繰り返し、差別問題に感情がどのように関わっているか、基礎研究と社会問題がいかに密接なつながりを持っているかを理解する。この過程を通じて、感情心理学の展開を学ぶ。

キーワード： 基本感情, 嫌悪, CAD 三幅対仮説, 道徳基盤理論, 差別, 行動免疫システム

3. 学習の到達目標：感情研究の展開を社会的・歴史的な観点から考えることができるようになる。
また、人前で発表することに慣れるとともに、発表スキルを磨く。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は対面で実施する。但し、オンデマンドビデオなどのリモート素材も活用する。資料提供や小レポートの提出、連絡などは Classroom を通じて行う。Classroom のクラスコードは、学部の「実験心理学演習Ⅱ」と共用するので、そちらに登録すること（詳細はガイダンスにて）。

以下のように講義を進めるが、実情に合わせて変更する。変更したスケジュールは、都度配布する。

講義とそれに関連した学生の発表・討議を 1 セットとして、このセットを 4 回繰り返す。

具体的には以下の通り。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 主要テーマ 1：基本感情
- 3 回目 感情心理学の補足・展開 1
- 4 回目 発表 1：基本感情
- 5 回目 主要テーマ 2：CAD 三幅対仮説
- 6 回目 感情心理学の補足・展開 2
- 7 回目 発表 2：CAD 三幅対仮説
- 8 回目 主要テーマ 3：道徳基盤理論
- 9 回目 感情心理学の補足・展開 3
- 10 回目 発表 3：道徳基盤理論
- 11 回目 主要テーマ 4：コロナ問題
- 12 回目 感情心理学の補足・展開 4
- 13 回目 感情心理学の補足・展開 5
- 14 回目 発表 4：コロナ問題
- 15 回目 発表 5：コロナ問題

5. 成績評価方法：毎時間の小レポート (60%) * , 期末レポート* (10%), 発表資料の提出と発表* (20%), 出席**と討議への参加 (10%)

上記の合計得点を踏まえて総合的に評価する。

*毎時間の小レポート・期末レポート・発表資料の提出と発表については、もれなく提出・実施した者のみ単位認定対象とする。

**2/3 以上出席した者のみ単位認定対象とする。

6. 教科書および参考書：資料は Classroom 経由で配布する。大学アドレスへのメールを頻繁に確認すること。

7. 授業時間外学習：論文 (和・英) を読み、要約し、プレゼン資料をまとめ、授業中に発表してもらうので、授業準備には相応の手間がかかる。しっかりと準備して授業に臨んで欲しい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

発表資料等、全ての提出物は受講生全員で共有して、互いに参考にする場合がある。これを前提に作成すること。

発表は自分自身のコンピュータを使って、パワーポイントの資料を投影する。

なお、講義室のプロジェクタは VGA (D-sub15pin) もしくは HDMI 端子なので、変換端子を用意すること。

発表以外の時もコンピュータ持参のこと。

科目名：実験心理学研究演習Ⅲ

曜日・講時：水曜 3 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LM13307, 科目ナンバリング：LIH-PSY612J, 使用言語：日本語・英語

1. 授業題目：神経・生理心理学の文献研究

2・授業の目的と概要：この授業では最初に与えられた文献（専門書）を輪読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。

3. 学習の到達目標：① 心理学の知識をどのように応用すれば、人間の日常行動を理解し、諸問題を解決できるかについて、自分で考えることができる能力を身につけることができるようになる。
② 自分でまとめたことや自分の考えを他人にわかりやすく伝えることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

最初に与えられた英語の専門書（具体的な書物名は授業初回に案内する）を講読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。

第 1 回 導入（講義の進め方／担当決め）

第 2 回 プレゼンテーションの方法

第 3 回 文献講読その 1

第 4 回 文献講読その 2

第 5 回 文献講読その 3

第 6 回 文献講読その 4

第 7 回 文献講読その 5

第 8 回 文献講読その 6

第 9 回 文献講読その 7

第 10 回 文献講読その 8

第 11 回 文献紹介その 1

第 12 回 文献紹介その 2

第 13 回 文献紹介その 3

第 14 回 文献紹介その 4

第 15 回 文献紹介その 5

5. 成績評価方法：（ ）筆記試験・（○）レポート[40%]・（ ）出席
（○）その他（発表態度）[60%]

6. 教科書および参考書：授業時に指示する。

7. 授業時間外学習：予め割り当てられた章について予習をして、パワーポイントを用いて発表できるように準備しておく必要がある。また、発表時の質疑等に基づいて、パワーポイントを改訂し、提出する必要がある。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

何か質問があれば、電子メール（nob_sakai@tohoku.ac.jp）で問い合わせるか、電子メールで予約をした上で、研究室に質問にくること。

この授業は原則として対面にて実施する。詳細はClassroomで通知する予定である。

科目名：実験心理学研究演習IV

曜日・講時：月曜 2限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：倉元 直樹

コード：LM21205, 科目ナンバリング：LIH-PSY613J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：心理測定の基礎

2・授業の目的と概要：量的方法論による心理学研究の方法論的基礎となる測定法の理論について基礎から学ぶ。古典的テスト理論 (Classical Test Theory) と項目反応理論 (Item Response Theory) を対比しながら、理念的な理解を深める。オーソドックスな輪講形式の演習スタイルを基本とするが、受講者の人数や希望によっては発展的な内容を加えたり、受講者が現在取り組んでいる研究を題材として取り交ぜる可能性も考慮する。時折、教科書の例題を基にレポートを課す可能性がある。英語論文の理解と執筆のために標準的な英語

3. 学習の到達目標：心理学的測定論に基づく手法を使って実際に研究を行うためのデータ収集デザインを自力で構想することができるようになること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：対面授業

1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介) (1コマ)
2. Classical Test Theory (True Scores and Error Variances, Reliability Coefficient and Estimation, Formulas for Estimating a Reliability Coefficient, Factors Affecting the Reliability Coefficient, Estimating the Standard Error of Measurement, Reliability of Difference Scores) (6～10コマ)
3. Item Response Theory (Basic Concepts and Models, Ability and Item Parameter Estimation, Assessments of Model-Data Fit, The Ability Scale and Information Functions, Item Construction and Bias, Equating, CAT) (6～10コマ)
(参加者の履修経験と準備状況によって、前半、後半のいずれに重点を置くかを決定する)
4. まとめ (1コマ)

5. 成績評価方法：出席状況 [40%程度]・小テスト [20%程度]・発表及び討論参加 [60%程度]

6. 教科書および参考書：(1) Traub, R. E. (1994). Reliability for the Social Sciences: Theory and Applications, Sage, Thousand Oaks, CA. (2) Hambleton, R. K., Swaminathan, H. and Rogers, H. J. (1991). Fundamentals of Item Response Theory. Sage, Newbury Park, CA.

7. 授業時間外学習：担当者は教科書の該当部分を中心に発表準備を行い、レジュメとプレゼンテーションを作成する。担当者以外の参加者は事前に教科書の該当部分を予習することが求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

授業そのものは日本語で行うことを原則とする。

科目名：社会心理学研究演習 I

曜日・講時：木曜 2 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LM24209, 科目ナンバリング：LIH-PSY614J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：犯罪・非行研究の展開

2・授業の目的と概要：本授業では、実証的な手法で実施された社会心理学並びに犯罪心理学の英文文献を多読し、日常生活で生じる反社会的行為に関連する最新の研究知見を理解することを第一の目的とする。また、他の受講生とディスカッションをしながら、心理学の研究手法の理解を深め、その方法を修得することを第二の目的とする。受講生は、事前に指定された英文文献を読むだけではなく、関連する資料を準備し、授業では発表と討論を行う。

3. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、以下の2点である。

(1) 社会心理学並びに犯罪心理学における最新の研究を読解することで、反社会的行為に関する心理学理論や知見への理解を深める。

(2) 社会心理学並びに犯罪心理学における最新の研究を読解することで、心理学の研究手法への理解を深め、最新の研究手法を修得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面で授業を実施します。授業にあたって、この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ず Google Classroom にアクセスし、クラスに参加してください。

1. 全体ガイダンス：授業の進め方の確認と担当の決定

2. 社会心理学研究の発表・討議 (1)

3. 社会心理学研究の発表・討議 (2)

4. 社会心理学研究の発表・討議 (3)

5. 社会心理学研究の発表・討議 (4)

6. 社会心理学研究の発表・討議 (5)

7. 社会心理学研究の発表・討議 (6)

8. 中間のまとめ：社会心理学と犯罪心理学の関連

9. 犯罪心理学研究の発表・討議 (1)

10. 犯罪心理学研究の発表・討議 (2)

11. 犯罪心理学研究の発表・討議 (3)

12. 犯罪心理学研究の発表・討議 (4)

13. 犯罪心理学研究の発表・討議 (5)

14. 犯罪心理学研究の発表・討議 (6)

15. 本授業の総括と今後の展開

※初回の授業で各自の関心を尋ねるので必ず出席すること。

※初回の授業を受けて、具体的なテーマを変更する場合がある。

5. 成績評価方法：発表・討論参加 (50%)

授業時間外学習・準備 (40%)

レポート (10%)

※やむを得ない事情 (忌引き・病気等) で欠席した場合には、その根拠資料 (診断書等) を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

6. 教科書および参考書：教科書は指定しない。発表論文は、以下の雑誌に過去 10 年以内に収録された論文に限る。

Journal of Personality and Social Psychology

Journal of Applied Social Psychology

Journal of Social Psychology

The British Journal of Social Psychology

Criminology

The British Journal of Criminology

なお、発表論文については、事

7. 授業時間外学習：事前学習として、パワーポイントなどを使って、担当論文を他の履修者に説明できるように準備しておくこと。発表の担当者ではない授業の前にも、討議に積極的に参加するために、当該範囲の予習を行うこと。事後学習として、発表資料の改定を求める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

履修状況によって、授業形態や発表回数に変更になることがある。初回の授業で授業形態や発表担当を調整するので、履修を希望する方は必ず出席すること。なお、学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

科目名：社会心理学研究演習Ⅱ

曜日・講時：金曜 2 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LM15208, 科目ナンバリング：LIH-PSY615J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：コミュニティと文化

2・授業の目的と概要：この授業では、コミュニティ・文化・社会行動などに関する社会心理学の論文を読解する。それぞれの論文でとりあげられている主要な理論を理解するとともに、実際に研究を進める方法論（とくにフィールドワークと事例研究）を学ぶことが目的である。受講生は対面授業に出席するとともに、課題論文を読んでレポートを提出しなければならない。

3. 学習の到達目標：1. コミュニティ・文化・社会行動などにかんする社会心理学関連の理論と研究の方法論（とくにフィールドワークと事例研究法）を学ぶ。

2. 論文や文献を調べて的確に理解する力を涵養する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業とオンライン授業（オンデマンド型）を併用して実施する。

1. 導入：授業の進め方の説明

2. 地域社会と犯罪

3. 集団と社会的アイデンティティ

4. 伝統文化とその変容①

5. 伝統文化とその変容②

6. シャーマニズムとヘルスケア・システム

7. 多文化状況と発達

8. 文化間移動と民族的アイデンティティ

9. 互助集団①

10. 互助集団②

11. 抵抗と服従

12. 近代化と社会化過程

13. アクション・リサーチ

14. 事例研究の方法論

15. まとめ

5. 成績評価方法：毎回提出する小レポートにより評価（100%）

6. 教科書および参考書：とりあげる論文を授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：とりあげる論文を精密に読解し、レポートにまとめる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

初回授業で、対面授業とオンライン授業（オンデマンド型）の併用について説明します。

上に示した授業計画はおおよその予定であり、授業進行に応じて調整をすることがあります。

レポートは対面授業での学習内容を踏まえて作成すること

科目名：心理学研究実習 I

曜日・講時：火曜 3 限、火曜 4 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：河地 庸介、阿部 恒之、坂井 信之、辻本 昌弘、荒井 崇史、RAEVSKIY ALEXANDER

コード：LM12309, 科目ナンバリング：LIH-PSY616J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：心理学測定実習 I

2・授業の目的と概要：心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習テーマは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。なお、以下の授業計画は担当者の都合などによる変更

3. 学習の到達目標：種々の心理学研究法の基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得し、その理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、状況に応じてオンライン・オンデマンド授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. オリエンテーション
2. 研究倫理
3. 観察法・フィールドワーク
4. 文献検索・レポート作成法
5. 実験法 1 (基礎)
6. 面接法
7. 質問紙法 (作成と実施)
8. 実験法 2 (動物実験)
9. 心理統計の基礎
10. 心理統計解析法
11. 心理統計解析実習
12. 質問紙法 (実施後の処理)
13. 心理検査法
14. コンピュータによる刺激制御法
15. まとめ

5. 成績評価方法：レポート [60%], 出席 [40%]

6. 教科書および参考書：Google Classroomにて指示する。

7. 授業時間外学習：毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

履修は原則として心理学専攻分野の大学院生に限る。

後期の心理学研究実習 II と連続履修すること。

科目名：心理学研究実習Ⅱ

曜日・講時：火曜3限、火曜4限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：河地 庸介、阿部 恒之、坂井 信之、辻本 昌弘、荒井 崇史、RAEVSKIY ALEXANDER

コード：LM22304, 科目ナンバリング：LIH-PSY617J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：心理学測定実習Ⅱ

2・授業の目的と概要：心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得し、活用できることを目指す。実習テーマは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。なお、以下の授業計画は担当

3. 学習の到達目標：種々の心理学研究法の基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得し、その理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、状況に応じてオンライン・オンデマンド授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. オリエンテーション
2. 感情の測定（ポリグラフィー）
3. 心理物理学的測定法
4. 信号検出理論
5. 一対比較法
6. 幾何学的錯視
7. 感覚の尺度化
8. 反応時間
9. ゲーム理論に基づく実験
10. 心理学の応用1（市場調査）
11. 心理学の応用2（裁判所）
12. 脳機能の計測法（NIRS）
13. 潜在的態度の測定
14. 官能評価法とその応用
15. まとめ

5. 成績評価方法：レポート [60%], 出席 [40%]

6. 教科書および参考書：Google Classroomにて指示する。

7. 授業時間外学習：毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

履修は原則として心理学専攻分野の大学院生に限る。

前期の心理学研究実習Ⅰと連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。